

別紙様式 1

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	東広島市
-------	------

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	東書	見開き2ページに渡る単元扉にダイナミックな写真や挿絵を掲載し、教材への興味、学習意欲を引き出すとともに、単元で身に付けた「言葉の力」や「学習の流れ」を簡潔に示して、学習の見通しがもてるように工夫されている。また、単元の終わりにも見開き2ページに具体的な学習の流れを示すとともに、ノート例、発言例を掲載して、児童が自ら学んでいくことができるように工夫されている。また、1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動が設定されている。さらに、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間、小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習を設定し、単元間につながりをもたせる工夫がされている。
書写	光村	始筆、送筆、終筆の動きが様々なキャラクターの動きで示され、「すうっ」「ぴたっ」「とん」などの擬態語、擬音語を活用して筆使いのイメージを掴みやすいように工夫されている。二次元コードにより、上からと斜めからの映像の動画で筆使いを確認することができる点も基礎的・基本的な内容を定着させるための工夫として挙げられる。さらに、各単元に、学習の進め方として、「考えよう」「たしかめよう」「生かそう」の3段階が示されており、主体的な学びを引き出す工夫も見られる。また、各学年において、国語科や他教科等の学習との関連教材を位置付け、日常生活や各教科等との関連を図った言語活動を設定していることに加えて、第6学年においては、第1学年から第6学年までに学習したことを日常生活に広げていくことができるよう、「書写ブック」としてまとめている。
社会	東書	基礎的・基本的な内容が定着できるよう、重要語句を「ことば」として明示し、「まなびのポイント」として学習活動などを掲載している。また、主体的に学習に取り組む場面では、「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の4過程に分けて社会科学習の進め方について解説してある。単元の最初「つかむ」のページには、全小単元で動画が準備されており、見通しをもち、主体的な学びを引き出すようにしている。さらに、資料が精選され、身近な広島県にかかわる内容も多く掲載されている。その上、二次元コードにより、Web上に動画、デジタルコンテンツなどが多く準備され、活用できるようにしている。高学年では、学年毎の教科用図書を2分冊で編集されており、持ち運びが容易である。まとめでは、多様なワークシートやまとめ方が準備され、言語活動が充実している。
地図	帝国	地図に関する基礎的な見方、地図帳の基本的な使い方のページが充実しており、構成や配列、表記などの工夫により児童の発達段階を考慮し、第3学年からの地図活用を促すことができるようにしている。吹き出しや地図に関する問題形式で児童の視点に立った課題により、特徴的な地形や産業などを地図から見いだすことができ、興味・関心を高めながら、主体的に学習を行うことができる。また、地図上に本市が明瞭に表示されており、地図全体も色合いや精選された記号、地名の適切な大きさ、太さにより、全体的に地図を読み取りやすくしている。さらに、二次元コードによるWeb上の資料の拡大により、学びを深め、広げることができる。

種 目	発行者	採 択 理 由
算数	東書	<p>主体的に学習に取り組む工夫について、動画「オープニングムービー」（授業の導入でも使えるような3分程度の内容）を適宜設定し、単元に入る前に教科書に表記されている内容とは異なる日常場面での課題発見や学習動機を高める工夫がされている。内容の構成・配列・分量については、1000を超えるコンテンツが準備されるとともに、デジタルコンテンツ上の補充問題もある。また、児童がつまずきやすい内容については、全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果を分析し、教科書の紙面上やデジタルコンテンツで繰り返し練習する場を適宜設ける工夫がある。内容の表現・表記については、吹き出しの内容における適切な見通し量に配慮し、児童の発想の源に意識を向ける程度にとどめている工夫がある。言語活動の充実については、「大切な見方・考え方」の内容を固定化しない配慮や巻頭に示されたPDCAサイクルに添った学び方を抽出単元でリンクして表示し、言語活動を充実させる工夫がある。また、間違った考えを修正する内容を意図的に取り入れることで、言語活動への必要感をもたせる工夫も見られる。</p>
理科	大日本	<p>紙面が大きく、写真や図を観察しやすくなっていること、児童の興味・関心・疑問等をもたせる単元の導入、体験活動が仕組まれていること、考える視点をキャラクターが提示すること等の点で優れている。また、問題解決能力の育成に向け、主にその学年で育成する問題解決能力を発揮する場面や過程に特別な表示がしてあり、児童も指導者も意識して学習を進めることができるよう工夫されている。さらに、話合いの進め方が例示されており、児童の学習の進め方の習得の参考になっている。1点目に問題と結論（分かったこと）が正対しており、結論（分かったこと）とそれ以外の説明を区別して記していること、2点目に問題発見や考察場面で科学的な見方を働かせて考えたり話し合ったりできるように、「ここに注目」と表示して着眼点を示していること、3点目に考察場面で、考察の話合い例を提示するとともに、予想の振り返りをする吹き出しがある。</p>
生活	東書	<p>小單元ごとに「本文」と「マーク」（?、♡、!）を用いてその活動で育成を目指す資質・能力を明確に記しており、児童にはめあてと振り返りが、教師には指導と評価の一体化が図ることができるようになっていく。巻末には各社とも思考力・判断力・表現力等の育成に資する観察の仕方や考え方、多様な表現方法などが記載されているが、第1図書は一番例示が多く、詳しく児童に指導できる記述となっている。また、単元の途中にも思考の観点やまとめ方等を具体的に記述しており、児童が活動途中で巻末をめくらなくても見ることができるので、活動を中断することなく学びをつなぎ、定着を図ることができる。と考える。</p>
音楽	教芸	<p>題材や教材が、系統的・発展的に構成されている。題材のねらいに即して、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材がバランスよく配置されているため、基礎的・基本的な内容が無理なく定着できるように工夫されている。また、題材の中には、発展的に学習できるような内容も掲載されている。さらに、感じたことや気付いたこと、楽器を選んだ理由等、根拠や気付きを記述する欄が設けてあることや、グループ活動時の会話を想定した吹き出し、図形譜や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
図画工作	開隆堂	<p>題材ごとに発想の手掛かりとなる工夫や気付き、思考の内容を、制作している児童の写真に吹き出しを付けて示すことで、児童の学習意欲を高める工夫をしている。また、すべての学年において巻末に「学びの資料」を8ページ設け、表現に必要な用具の扱い方や技法、材料についてイラストや写真を使って説明しており、特に安全面や片付け方について注意喚起する工夫がされている。さらに、用具の使い方を動画で見るための二次元コードも掲載されている。そして、各題材で育てたい資質・能力に対応させた三つのめあてのうち一つを中心的なめあてとして強調して示し、そのめあてに対応したキャラクターが児童に語りかけることで児童の学習を深める支援を行うように工夫されている。さらに、各題材の紙面下段右に「あわせて学ぼう」として関連する教科名等とともに具体的な学習活動を想起させる文章を示すことで、教科横断的な学習への手立てとなるように構成が工夫されている。</p>
家庭	開隆堂	<p>生活の課題と実践例四つを紹介し、課題発見から解決、振り返りまで行うような例が示されており、学習したことを生かして主体的に興味をもって学習が進められるよう工夫している。また、伝統的な衣食住などの文化に関する特設ページを設け、日本の伝統や文化に興味をもたせることができるようになっている。主体的に学習に取り組む工夫について、「キャリアインタビュー」で衣食住の生活や消費生活・環境等に関わる仕事をする方々の話を多く掲載しており、持続可能な未来について考え、学びを将来につなげてとらえることに有効である。また、内容の構成・配列・分量において、衣・住及びSDGsに関する内容をスモールステップで扱うことで充実した学習ができるようになっている。</p>
保健	東書	<p>児童が発展的に探究学習に取り組むことができる掲載資料が充実している等、教育の充実に関する内容の構成・配列を工夫している。また、教科横断的な学習の充実に関する内容の構成を工夫している。さらに、教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動を工夫しているとともに、直接、教科書に記述できる等の工夫が充実している。教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫が見られる。</p>
英語	東書	<p>各単元とも目指す姿を明示し、学習段階ごとに振り返りができるような内容の構成が工夫されている。また、4線入り単語リストや表現例、ユニットごとの基本表現リスト、書くことに対する支援のため4線の第2線を点線で示し筆順を示す破線フォントも使用するなど、学習を補助する細かい配慮がなされている。</p>
道徳	光文	<p>学習の流れの中に「授業が終わっても」という文言を入れて自分の生活に生かす示唆を与えている。具体的には、全学年で教材に付随した興味・関心を引くコラムがあるとともに、実際に問題となる場面を想定した体験的な活動を他教科や生活との関連で取り入れる等、生活に繋ぐ工夫がされている。発問は、登場人物の心情の変化を追うだけでなく、道徳的価値そのものについて深く考えられる問いかけになっており、発達段階に応じた思考ツールや話し合う際に使いたい言葉が例示されており、それらを活用して主体的に学びを深められるような工夫がされている。</p> <p>さらに、現代的課題の中の一つ「へこんでも立ち直る」は低・中・高学年で系統性をもたせ、理解を深められるような配列となっているとともに、各学年に設けられたレジリエンスコラムにおいて自分の良さや可能性が認識でき、自分の心の力について考える工夫がされている。また、重点主題である「いじめを生まない心」「命を輝かせる」を全学年共通で設定し、重点主題教材では、扉ページ→教材1→教材2と複数時間で扱うことで問題意識をもって学び、多面的・多角的にとらえるように構成が工夫されている。</p>